

コミュニティ・スクール



～地域とともにある

学校づくりをめざして～



日吉津村教育委員会

令和3年3月

も く じ

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について コミュニティ・スクールのしくみと組織	・・・・・・・・	1
コミュニティ・スクール導入により期待される効果	・・・・・・・・	2
地域の皆さんにお世話になった活動 〈令和2年度〉	・・・・・・・・	3～6
コミュニティ・スクール導入までの取組	・・・・・・・・	7～8

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）について

子ども達や学校を取り巻く環境が複雑化・多様化する中、未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには、社会総がかりで教育の実現を図っていくことが重要です。

学校と地域がパートナーとして連携・協働による取組を進めていくためには、学校と地域住民等が「地域でどのような子どもを育てるのか」を議論し、目標やビジョンを共有することが大切です。

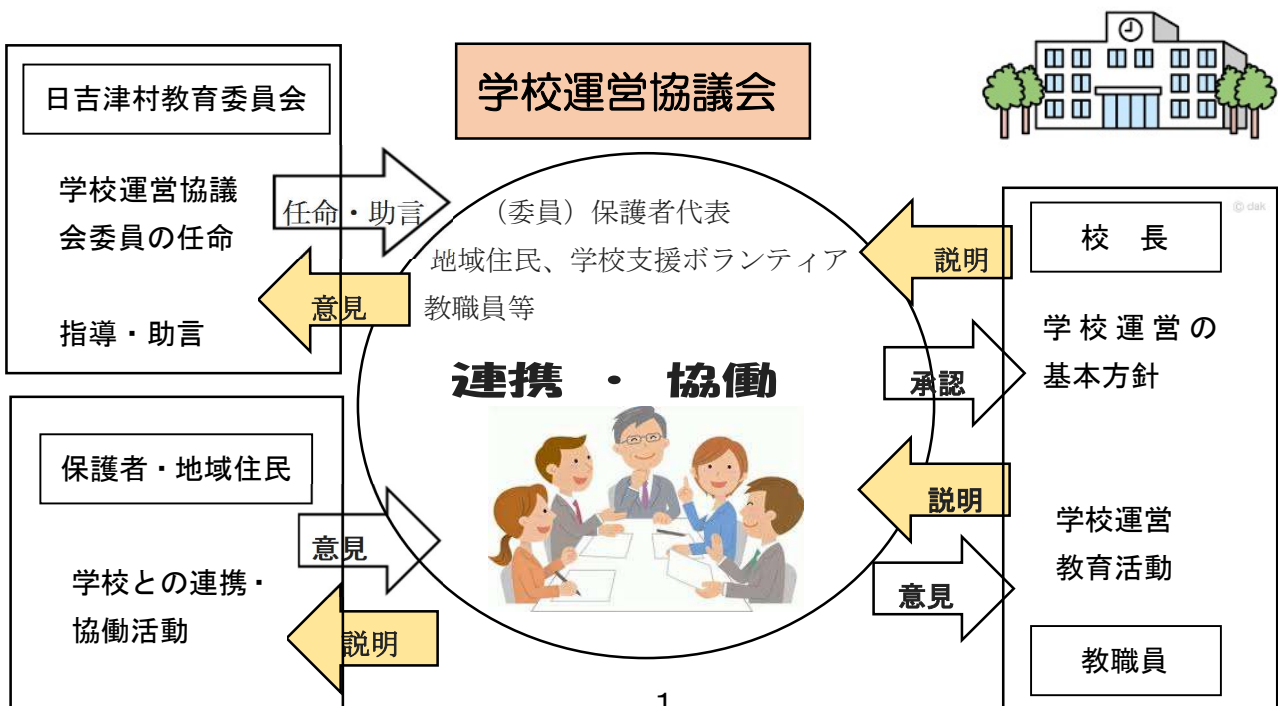
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校づくり」への転換を図るための有効な仕組みです。

日吉津村では、令和3年度から、日吉津小学校にコミュニティ・スクールを導入し、学校・家庭・地域が連携・協働して子どもの教育に関わることにより学校も地域も子どもも元気になる「地域とともにある学校づくり」を目指しています。

学校運営協議会の目的

1. 保育所・小学校・社会教育の取組を中心に保護者・地域住民・各種団体が協働・連携した地域コミュニティを創造すること
2. 自己実現のための確かな資質を持ち、ふるさと日吉津村を大切にする心を持った子どもを育成すること
3. 地域の住民及び保護者等と学校相互の理解を深め、信頼される学校を構築すること

コミュニティ・スクールのしくみと組織



コミュニティ・スクール導入により期待される効果

① 組織的・継続的な体制の構築 = 持続可能性

校長や教職員の異動があっても、学校運営協議会によって地域との組織的な連携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能な仕組み」です。

② 当事者意識・役割分担 = 社会総掛かり

学校運営協議会や熟議の場を通して、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのかという「目標・ビジョンを共有」できます。

③ 目標・ビジョンを共有した「協働」活動

校長が作成する学校運営の「基本方針の承認」を通して、学校や地域、子ども達が抱える課題に対して関係者がみな当事者意識をもち、「役割分担をもって連携・協働による取組」ができます。

教職員や保護者、地域の皆さんが、子どもの教育に対する課題や目標を共有することで、学校を支援する取組が充実するとともに、関わる全ての人に様々な魅力が広がっていきます。

子どもにとって の魅力

- 子ども達の学びや体験活動が充実します。
- 自己肯定感や他人を思いやる心が育ちます。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。
- 防犯・防災等の対策によって安心・安全な生活ができます。

教職員にとって の魅力

- 地域の人々の理解と協力を得た学校運営や「社会に開かれた教育課程」の実現が可能となります。
- 地域人材を活用した教育活動が充実します。
- 地域の協力により子どもと向き合う時間が確保できます。

保護者にとって の魅力

- 学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。
- 地域の中で子どもが育てられるという安心感があります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

地域の人々に とっての魅力

- 経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながります。
- 学校や社会的つながり、地域のよりどころとなります。
- 学校を核とした地域ネットワークが形成され、地域の課題解決につながります。
- 地域の防犯・防災体制等の構築ができます。



地域の皆さんにお世話になった活動

〈令和2年度〉

—子どもたちの学びや体験活動の充実につながっています—



あいさつ運動



読み聞かせ



さつまいも苗植え (1.2年)



田植え体験（4年）



大豆の種まき（3年）



ネギ農家インタビュー（3年）



平和学習 (6年)



枝豆収穫 (3年)



稲刈り (4年)



さつまいもほり (1.2年)



さつまいもパーティー (1.2年)



大豆落とし (3年)



コミュニティ・スクール導入までの取組

◇令和元年度

コミュニティ・スクール導入に向けて

1. 地域学校協働活動に関する研修
2. 学校運営協議会規則（案）の作成
3. 教育委員による先進地視察
4. 委員報酬の準備（予算計画、議会の承認）

◇令和2年度

コミュニティ・スクール導入に向けて

・日吉津小学校運営協議会設置推進委員会を立ち上げ、令和3年度のコミュニティ・スクール導入に向けて必要性等学びました。

□学校運営協議会設置推進委員会委員〈任期：令和2年6月1日～令和3年3月31日まで〉

◎委員長 ○副委員長

氏名	役職など	氏名	役職など
◎山根直樹	社会教育委員	○井藤健志	地域代表
三宅拓磨	P T A会長	村上春菜	P T A副会長
立脇賢二	学校支援ボランティア (農事組合法人ひえづ代表)	林 順一	学校支援ボランティア (老人クラブ連合会会長)
兼本修二	学校支援ボランティア 読み聞かせ(交通安全指導員)	石 敬子	学校支援ボランティア あいさつ運動(更生保護女性会代表)
田辺昌宏	地域代表	山路由紀子	日吉津保育所所長
矢倉美和子	日吉津小校長	河本里美	日吉津小教頭
長谷徳子	地域コーディネーター	横田威開	教育委員会事務局(教育課長)

□日吉津小学校運営協議会設置推進委員会

第1回 6月29日

(内容) 設置推進委員会の趣旨説明、年間スケジュール



第2回 8月6日

(内容) 委員研修「コミュニティ・スクールについて」

講師：伯耆町前教育長 後藤 弥 氏

視察研修計画



第3回 9月29日

(内容) 熟議「めざす子どもの姿」

講師：鳥取県教育委員会 西部教育局

社会教育担当係長 下前 博司 氏



第4回 11月19日

(内容) 熟議「めざす子どもの姿」の設定と確認について



第5回 3月5日

(内容) 令和3年度日吉津小学校学校経営方針について



(※令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、視察研修等は実施できなかった)